

# 倭寇と松浦の地①（1/2）

～倭寇とは・倭寇は、一体誰～

## ■倭寇とは

13世紀から、16世紀にかけて、特に14世紀後半、中国や朝鮮の沿岸に頻繁に海賊が出没し、海沿いの村を襲っては、財産や食糧を、ときには、人間をも連れ去った。広い海原ゆえ、いつ、どこに現れるか予測できず、「三島の賊」として、恐れられた。

三島とは、壱岐、対馬、肥前松浦および博多である。こうした、海賊を当時の中国や朝鮮の人々は、倭寇と呼んだ。ちなみに、「倭寇」とは、中国側からの呼び名で、「倭」は背の曲がった小さい人の意味があり日本人のことをさす。「寇」とは外から攻め込んで荒らす賊の意味である。

それで、日本側からは、倭寇ではなく、「八幡船（はちまんせん・ばはんせん）」の名称を使うこともある。これは、これらの船が、八幡大菩薩の旗を掲げていたことによる。

倭寇は、13～16世紀の300年間の長い間活動している。それ故、前期倭寇は、朝鮮半島や中国大陸を中心に活動。やがて朝鮮半島での活動は終息し、後期倭寇は、明の時代、嘉靖（1522～1566年）に、中国大陸の南シナ海や東シナ海で活動した。

豊臣秀吉の「海賊禁止令（1589年）」で、倭寇は消滅する。

それは、秀吉の国家としての統制がとれ、「令」に反する者には処罰されることになるからである。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『倭寇』太田弘毅著
- ◆『唐津市市』
- ◆『鎮西町史』
- ◆『図説、日本の歴史』河合敦著
- ◆『浜玉町史』上巻 P420
- ◆『巖木町史』
- ◆『末盧国』松浦史談会著

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

	分野
	地域
<p style="text-align: center;"><b>倭寇と松浦の地①（2/2）</b> ～倭寇とは・倭寇は、一体誰～</p>	<p style="text-align: center;">歴史 全域</p>
	<p style="text-align: center;">◎地図・写真・統計資料など</p>
<p>～1/2からつづく～</p>	
<p><b>■倭寇は、一体誰</b></p>	
<p>「倭寇の実態について日本の記録は極めて少なく、高麗や明国の記録をもとに、倭寇は松浦党であるとする。その根拠として、『高麗史（1451年）』には、「三島は倭寇の根元」とした箇所があるからである。また、朝鮮の『東海諸国記』（李の申叔舟が王命によって編纂。室町時代の日鮮関係を知る貴重な資料）にも、「肥前州に上下松浦あり、海賊の拠る所、前期（高麗期）すえ、我が辺に寇する者は、松浦党。壱岐対馬の人を率いて来る者多し。」と記してあることにもよる。」</p>	
<p>また、『倭寇』太田弘毅著では、「このことより”倭寇”は、松浦党が関与していたことは、地理的条件や操船技術からも考えられる。だが、時代背景を考える時、ある時は、肥後の菊池氏や薩摩武士ではなかったかと考える人もいる。</p>	
<p>次に、倭寇の規模だが、その当時この地の御家人草野氏でも勤士（ごんし）員数152名であったから、松浦党の一集団は、せいぜい軍事力150人以下である。それで、松浦党倭寇としては、小集団の場合や各地での寄せ集め集団の場合等であったろうと、考えられる。</p>	
<p>そして、意外なことに、倭寇は、日本人の場合だけでなく、時には、ニセ倭寇としての朝鮮人や中国人の場合もあった。また、日本人と一緒にあったの混合集団もあった。だから、海上を舞台にした、日本人、朝鮮人、中国人のアウトローの集団でもあった。特に、明朝を震えあがらせた倭寇は、『紀そう除徐海本末（きそうじょじょかいほんまつ）』によれば、中国人「徐海」をリーダーとし同時多発的に各地にあらわれ、その集団の1部分ずつは、なんと「数千人」であったという。</p>	<p>◎引用・参考文献（出典）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆『倭寇』太田弘毅著</li> <li>◆『唐津市市』</li> <li>◆『鎮西町史』</li> <li>◆『図説、日本の歴史』河合敦著</li> <li>◆『浜玉町史』上巻 P420</li> <li>◆『巖木町史』</li> <li>◆『末盧国』松浦史談会著</li> </ul>
	<p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： <a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a></p>